「自己を拓く」進路だより

令和６年２月９日
静岡県立浜北西高等学校　進路指導課

今なぜ大学へ進学するのか

大学への進学率が 50%を超え、全入学時代の到来と言われている昨今、大学に入学する意味も昔に比べて大きく変わってきています。18歳人口は1990年代をピークに徐々に下降してきているのに対して、大学への進学率は大きく伸び続けました。2019 年には 18 歳人口 120 万人に対して約 60 万人の大学入学者がおり、２人に１人の割合で進学していることになります。

これまでは入試制度も今のように多様化していなかったため受験生には多くの労力を必要としていました。そのため、受験生にとって大学に入学することが目的つまりゴールとなっていました。そうなってしまうと大学に入学後も積極的に勉強をする学生は少なく日本社会が好景気の時などは大学３年生で内定をもらい企業による囲い込みなども行われ学生に意識も低くなっていきました。しかし今の時代はそうは言っていられません。企業側も今の学生に求めるものは変わってきています。大学は通過点であって自分がそこで何を学び、どのように過ごしそれを社会に出た時にどのように活かすのかという明確なビジョンが求められます。ただ机の前に座り講義をする先生の話を聞くだけの受け身な姿勢では取り残されてしまいます。１・２年生には、自分が大学に行くことの意味や自分のやりたいことなど今一度ここでしっかり考え決意をもって残りの高校生活を過ごして欲しいと思います。

これから先の将来に求められる能力

これから先の将来で求められる力は「主体性」「思考力・探究力」「グローバルな視野」「多様性」ではないでしょうか。皆さんもどこかで聞いたり目にしたりしたことがあるかと思います。「主体性」とは想定外のことが起こったときにどのように対処するかということだと思います。令和６年１月１日に発生した能登の地震では、ＳＮＳなどを通して（正しいもの正しくないものを含む）様々な情報が流され混乱が起きました。また、誹謗中傷などの事例も見受けられました。思ってもみないことが起こっているのだから当然ではありますが、多くの人たちは混乱してしまいます。そのようなときに様々な情報媒体を使い異なった意見や事例を集めたり、冷静に判断したりと自分ができることからやっていくことが求められます。それが正解とは限りませんが、後から振り返ったときにそのやり方が正解だったという道筋が決まると思います。もちろん、しっかり判断しても結果的に失敗することもあるかもしれません。ただ、何もしないで他人に委ねて、のちに批判したり、失敗を恐れて何もしなかったりするのではなくやったことのない課題に失敗を恐れずに挑戦する人や異なった意見にも共感し受け止められる人、そして振り返りができる人そのような人が求められているように感じます。

学校の教育活動の中でこのような能力を身につけていくためには授業だけでなく部活動や学校行事そして校外での活動を含めたすべての生活の中で育んでいくのだと思います。学校生活全体で協働して解決策を求めていく活動の中で生徒が自身の判断力・コミュニケーション力を活かしその能力を育成していく。そしてそれを大学での高度な学びや研究を通してより洗練されたものにしていく。そうすることで社会にある様々な問題に対処できる必要とされる人間になれるのではないかと考えます。

最後に

３年生が間もなく卒業し、４月には新しい１年生が入学してきます。時間は皆さんに平等にありますが、その使い方で大きな違いも生まれるでしょう。これからの社会で浜北西高校の多くの生徒が必要とされるように、この学校での１日１日を大切に過ごし、自分の将来のために役立てていけるように頑張っていってください。